

平成22年 6月 4日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520583

研究課題名（和文） 朝鮮三国時代の墳墓における棺・槨・室構造の特質とその変遷

研究課題名（英文） A study on the structural feature of coffin, compartment protecting coffin, and chamber in the Three Dynastic Period of Korea.

研究代表者

吉井 秀夫 (YOSHII HIDEO)

京都大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：90252410

研究成果の概要（和文）：200字程度で記述

本研究は、埋葬施設における棺・槨・室構造を検討して、朝鮮三国時代の墳墓の地域性と変遷を解明することを目的とした。研究の結果、原三国時代の木槨墓に用いられた棺の構造や機能における地域性は、多様な構造の埋葬施設が登場した4・5世紀の墳墓においても、基本的には維持されたことを明らかにした。また、王墓に横穴系石室が受容された6世紀に棺の機能は大きく変化し、その広がりが各国家の領域とほぼ重なることを示した。

研究成果の概要（英文）：

This study project aimed to examine the structural feature of coffin, compartment protecting coffin, and chamber, for finding out the regional characteristics and the change of the tombs in the Three Dynastic Period of Korea. As the result, I revealed that the regional characteristics of the structural feature of coffin began to appear in Proto Three Dynastic Period, and they were maintained still 4th and 5th century, regardless of the structural change among the tombs at that time. And I found that the new style coffin diffused in the territory of the Koguryo, Paekche, Sinla and Kaya in 6th century, when the corridor-style stone chamber was adapted as the main burial facility of the tomb of a king.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	900,000	0	900,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
総計	3,400,000	750,000	4,150,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：三国時代・朝鮮・棺・槨・室・墓制

1. 研究開始当初の背景

朝鮮半島の各地に高句麗・百濟・新羅および加耶諸国が並び立ち、覇を競い合った三国

時代は、地域ごとにさまざまな特徴をもった墳墓が盛んに造られた時代でもあった。これまでの研究により、この時代の墳墓は、おお

むね木棺墓→木槨墓→竪穴式石槨墓→横穴式・横口式石室墓、という順序で築造されたことが明らかにされている。しかし、これらの墳墓の名称に用いられている「棺」・「槨」・「室」といった用語は、明確に定義されずに用いられてきた。その結果、実際の構造や性格が大きく異なる埋葬施設が、用語の共通性により関連づけられるなど、墓制の時空的な変遷を理解する上で、さまざまな問題が生じていた。そのために、三国時代の墳墓の構造の実態を明らかにしつつ、これらの用語を再定義することが必要な状況にあった。

2. 研究の目的

前項のような先行研究における問題点を解決するために、本研究では、墳墓資料の実態を整理して、朝鮮三国時代の墳墓における棺・槨・室の概念の再定義を試み、その具体的な構造の地域性と変遷を明らかにすることで、三国時代墳墓研究に新たな視角を提供することを目的とした。具体的には、朝鮮半島のいくつかの地域の墳墓の変遷を検討する中で、①「棺」構造の復元とその特質、②「槨」構造の特質、③「槨」から「室」への変遷過程を明らかにすることとした。

3. 研究の方法

本研究では、まず、調査例が急増している朝鮮半島西南部および東南部の2つの地域において、関連する資料を集成した。そして、埋葬施設の構造を検討することによって、墳墓変遷の画期を明らかにし、各地域・画期ごとに、墳墓の「棺」・「槨」・「室」の構造的特徴および機能的特徴を明らかにする作業を進めることにした。特に、「槨」と定義されることの多い竪穴系埋葬施設から、「室」と定義されることの多い横穴系埋葬施設への変遷過程において、「棺」の構造および機能がどのように変化したのかを明らかにする作業を通して、墳墓の地域性をよく反映する属性と、地域を越えて共通する、あるいは地域間の影響関係を示す属性を見出すことを目指した。

また、今回の研究を進めるために、現在の三国時代墓制研究に関するさまざまな概念を整理するためには、植民地朝鮮において日本人が墳墓をはじめとする古蹟をどのように調査し、それをもとにどのような研究を進めたのかを再検討する必要があると考え、学史的な検討も進めることにした。

4. 研究成果

(1) 原始・古代の朝鮮半島における墳墓築造の画期の検討

朝鮮半島において本格的に墳墓が築造されはじめる新石器時代から、高句麗・百済が滅び、新羅が大同江以南の地域を支配下に納

めるまでの墳墓の変遷を、以下のような画期で整理した。

段階Ⅰ（新石器時代）：死者を埋葬するための施設である墳墓が登場する段階。土壙墓が多く、基本的に墳墓間に階層差が認められない。

段階Ⅱ（青銅器時代）：支石墓や箱式石棺墓が主たる墳墓として築造される段階。規模や副葬品の量によって、他の墳墓とは区別される墳墓群や墳墓が出現する。

段階Ⅲ（初期鉄器時代）：細形銅剣をはじめとする多様な青銅器が製作され、墳墓に埋葬される段階。青銅器の種類と数によって、墳墓間にいくつかの階層の存在が想定できる。

段階Ⅳ（原三国時代）：大同江流域に木槨を埋葬施設とする墳丘後行型墳墓が出現し、その他の地域においても独特の構造をもつ墳墓が築造される段階。

段階Ⅴ（4・5世紀）：鴨緑江流域、漢江流域、洛東江流域において、王墓と呼びうる墳墓が出現する段階。

段階Ⅵ（6・7世紀）：各地の王墓が、独特の構造をもつ横穴系埋葬施設を採用すると共に、その影響を受けた墳墓が、これまでの墳墓の地域性を越えて、高句麗・百済・新羅の領域内の各地で築造されるようになる段階。

(2) 原三国時代における墳墓の地域性と棺・槨の特徴の解明

原三国時代においては、紀元前1世紀頃に大同江流域で木槨墓が出現し、紀元後2世紀頃には洛東江流域でも木槨墓が出現する。また、錦江流域の周溝土壙墓の埋葬施設の中にも、「木槨」と呼びうる構造物をもつ墳墓が存在する。これらの墳墓における棺と槨の構造および機能の比較検討をおこなった結果、どの地域においても、木槨の内部には、「埋葬施設内で屍身を保護し、その他の構造物や副葬品を安置する空間を区分する構造物」という意味での「棺」の存在を指摘することができた。ただ、棺の具体的な構造や規模、および数は、地域ごとに大きく異なる。

これらの木槨墓の源流は、中国中原地域の木槨墓にまでさかのぼることが可能である。しかし、各地域における具体的な墓制受容のあり方の違いが、木槨・棺の構造および機能の違いをもたらしたと考える。また、この段階における棺の構造・機能の地域的な違いは、その後の段階にも引き継がれた可能性が高い。

(3) 4・5世紀における墳墓の地域性と棺・槨・室の特徴の解明

4世紀以降、高句麗・百済・新羅および加耶諸国の王都周辺では、墳墓の立地、埋葬施

設の構造・規模、副葬品の量・質において、同一地域内、もしくは周辺地域の墳墓とは隔絶した、「王墓」と呼ぶうる墳墓が出現する。その一方で、この時期には木槨が石槨に変化し、さらに「室墓」と呼ぶうる横穴系埋葬施設が受容され、朝鮮半島の各地でさまざまな構造の墳墓が築造された。

しかし今回、埋葬施設の構造の変化様相を詳細に検討した結果、槨や室の構造が多様であるにもかかわらず、「棺」の構造や機能、被葬者数や葬送儀礼の手順などについては、必ずしも大きくは変化しなかったことを明らかにした。すなわち、釘や鏝を用いた「据えつける棺」が用いられた錦江流域や南漢江流域では、横穴系埋葬施設が受容されて以降も、棺の構造や被葬者数には変化がみられないことを指摘した。また、洛東江流域の釜山福泉洞古墳群では、木槨墓から石槨墓への変化にもかかわらず、鏝を用いた、比較的大きな空間を占める棺が用いられ続けている。陝川玉田古墳群では、大加耶の影響を受けて石槨墓の構造や副葬品の内容が変化したにもかかわらず、鏝を用いた棺の構造とその石槨内での配置には、変化がみられないことを明らかにした。

(4) 6・7世紀における墳墓の地域性と棺・槨・室の特徴の解明

6世紀にはいと、高句麗・百済・新羅および加耶諸国において、王墓級の墳墓に横穴系埋葬施設が採用される。そして、百済の陵山里型石室のように、石室構造に代表される独特の墓制・葬制がそれぞれの政治領域内で普及した。この段階において、「持ちこぼ棺」である釘と鏝座金具が伴う木槨が、高句麗や百済で一般的に用いられるようになる。百済の場合、王墓級の墳墓とそれ以外の墳墓の間には、木槨材、釘や鏝座金具の材質や形状、規模などの点において、明確な差が見出される。

こうした木槨は、4・5世紀代に朝鮮半島西南部に横穴系埋葬施設が出現した段階に導入されたと研究代表者は考えてきた。しかし、今回、再検討をおこなった結果、百済における初期横穴式石室で用いられた棺は、従来の「据えつける棺」の系譜を継ぐ、釘と鏝で組み立てられた木槨であり、武寧王陵が築造された6世紀前半ころから、釘と鏝座金具を用いた「持ちこぼ棺」の本格的な受容と普及が進められたことを明らかにすることができた。

こうした特徴をもつ棺や石室は、高霊を中心とする加耶地域にも出現することは従来から指摘されていたが、今回の検討により、新たな墓制は、王墓のみならず周辺地域の首長墓やその周辺の堅穴系墳墓の墓制にも、少なからずの影響を与えたという見通しも立

てることができた。

(5) 朝鮮三国時代の墳墓における棺・槨・室構造の特質とその変遷

以上のように、朝鮮三国時代においては、各地にさまざまな墳墓が築造され、棺・槨・室の構造とその変遷過程も、実に多様であった。こうした墳墓に用いられた棺・槨・室の定義が一致せず、さまざまな議論を呼び起こしてきた原因の一つとして、「槨墓」から「室墓」への連続的な変遷過程を追うことができる中国中原地域とは異なり、朝鮮半島においては、構造的な「槨」・「室」の違いが、実際の墓制における機能からみた実態とは、必ずしも一致しないことにあることを指摘できた。

特に「室墓」である横穴系墓制の受容に当たっては、同じ埋葬施設内に複数の被葬者を埋葬するために、「棺」の構造と機能を変化させるための、いくつかの方法が存在することが指摘されてきた。しかし、今回の検討により、そうした方法以外に、横穴系墓制の受容の最初期においては、埋葬施設の構造は受容しながら、その中に納められる棺の構造、被葬者数、副葬品の内容などにおいて、それ以前の「槨墓」である堅穴系墓制の伝統がそのまま受け継がれた場合が、少なからずあることを解明することができた。こうした受容様相は、朝鮮半島だけではなく、日本列島における横穴系墓制受容の初期段階においても確認されている。このように、新たな墓制の受容過程にはさまざまな方法が存在し、その背景に地域ごとの墓制・葬制の伝統があることを前提とすることにより、朝鮮三国時代の墓制の地域性と変遷を、より実態に即した形で理解することが可能になるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ① 吉井秀夫、「植民地時代慶州における古蹟調査事業」、『月刊考古学ジャーナル』、査読無、No.596、2010年、14-17頁
- ② 吉井秀夫・崔英姫、「京都大学総合博物館所蔵山田針次郎寄贈高句麗瓦の検討(韓国語)」、『日本所在高句麗遺物』、査読無、II、2009年、78-229頁
- ③ 吉井秀夫、「澤俊一とその業績について」、『高麗美術館研究紀要』、査読無、第6号、2008年、77-89頁
- ④ 吉井秀夫、「墓制からみた百済と倭一横穴式石室を中心に一」、『百済と倭国』、査読無、2008年、117-136頁
- ⑤ 吉井秀夫、「日帝強占期石窟庵の調査および解体修理と写真撮影について(韓国

語)』『慶州新羅遺跡の昨日と今日—石窟庵・仏国寺・南山—』、2007年、198—209頁

- ⑥ 吉井秀夫、「古代東アジア世界からみた武寧王陵の木棺」、『日中交流の考古学』、2007年、406—415頁
- ⑦ 吉井秀夫、「考古学から見た百済の国家形成とアイデンティティ」、『東アジア古代国家論—プロセス・モデル・アイデンティティ—』、2006年、166—186頁

〔学会発表〕(計6件)

- ① 吉井秀夫、Restoring Sokkuram: Archaeology, Photography and Architectural Preservation in Kyongju, Creating and Keeping Records in Korea : The 2nd Kyujanggak International Symposium on Korean Studies, 2009年8月27日、大韓民国ソウル大学校奎章閣韓国学研究院
- ② 吉井秀夫、「日本考古学史からみた朝鮮古蹟調査事業と朝鮮総督府博物館(韓国語)」、韓国博物館開館100周年記念セミナー、2009年6月26日、国立中央博物館
- ③ 吉井秀夫、Photography and Archaeology : The Re-construction of Sokkrum in early twentieth century Korea, Fourth Worldwide Conference of the SEAA, 2008年6月4日、中国社会科学院
- ④ 吉井秀夫、「横穴系墓制を通して見た6世紀の加耶と周辺諸国(韓国語)」、第14回加耶諸国国際学術会議 6世紀代加耶と周辺諸国、2008年4月25日、大韓民国国立金海博物館
- ⑤ 吉井秀夫、「横穴式石室からみた古代朝鮮半島と北陸」、シンポジウム継体大王とその時代—渡来文化と横穴式石室—、2007年10月13日、福井県立大学
- ⑥ 吉井秀夫、「日帝強占期慶州新羅古墳の発掘調査(韓国語)」、国立慶州文化財研究所学術シンポジウム 新羅古墳発掘調査100年、2006年12月8日、大韓民国国立慶州文化財研究所

〔図書〕(計1件)

- ① 吉井秀夫、京都大学学術出版会、『古代朝鮮 墳墓にみる国家形成』、2010年、287頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉井 秀夫 (YOSHII HIDEO)
京都大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：90252410

(2) 研究分担者：無
()

研究者番号：

(3) 連携研究者：無
()

研究者番号：